



### 韓国から紹介状

そこで年一回開催されている「国境マラソン」には、日本だけでなく、韓国からも大勢の参加者がやってきます。私たち病院スタッフは救護班として参加します。

マラソンと言ってもハーフマラソンで、五キロや十キロの部門への参加者が多いのです。しかし、さまざまな事態を想定して事前

晴れ渡った日には、海の向こうに韓国の釜山の町並みが見える長崎県対馬。私が勤務している上対馬病院は、釜山までわずか四十九キロという国境の島にあります。韓国からの観光客も多く、標識にはハングル語の記載があります。

# 「頼りになる病院」目指し

に消防と自衛隊とのミーティングを行い、AED(自動体外式除細動器)なども配置します。

当日、朝早くから本部の救護所を整備していると、次第に参加者が集まってきました。韓国

からの参加者がいろいろ言っていますが、英語があまり通じず困っていました。そこに現れた

院長の奥さまのハングル語が流ちょうなこと！韓国ドラマの影響からか、ハングル語会話教室に通っているそうです。本当に助かりました。

日常の診療でも、観光に来ていた韓国人が訪れることが多々あります。急な腹痛を起こした人や、サイクリング中に転倒して骨折した人などさまざまです。逆に、漁船でけがをした日本人が韓国の病院で診察を受け、韓国の病院からの紹介状を受け取ったこともありました。英語で紹介状をやりとりしていると、「国境の島」で働いているのだと実感します。

### 重要な初期治療

また、離島ならではの医療の特徴もあります。私は外科医ですが、高齢者に悪性腫瘍(しゅよう)を見付けても、子供の住む本土へ行って手術することが

「やっぱり、いざという時にも頼りになる病院ばい」。そう言われる病院を目指しています。

\* 大坪医師は異動となり、現在は長崎県対馬いづはら病院に勤務しています。(次回予定は滋賀県)

おおつば 大坪 りょうた 竜太 23期生2000年卒



日韓のランナーが健脚を競う国境マラソン。スタートする参加者たち

### 長崎県離島医療圏組合上対馬病院

【私の勤務地】人口約3万8000人の対馬市の最北端にあり、一般病床60床、療養型病床24床で、訪問看護ステーションを中心として在宅医療も行っている。常勤医師は内科3人、外科2人、小児科1人、産婦人科1人。3次救急患者は本土へ、ヘリコプター搬送を行っている。